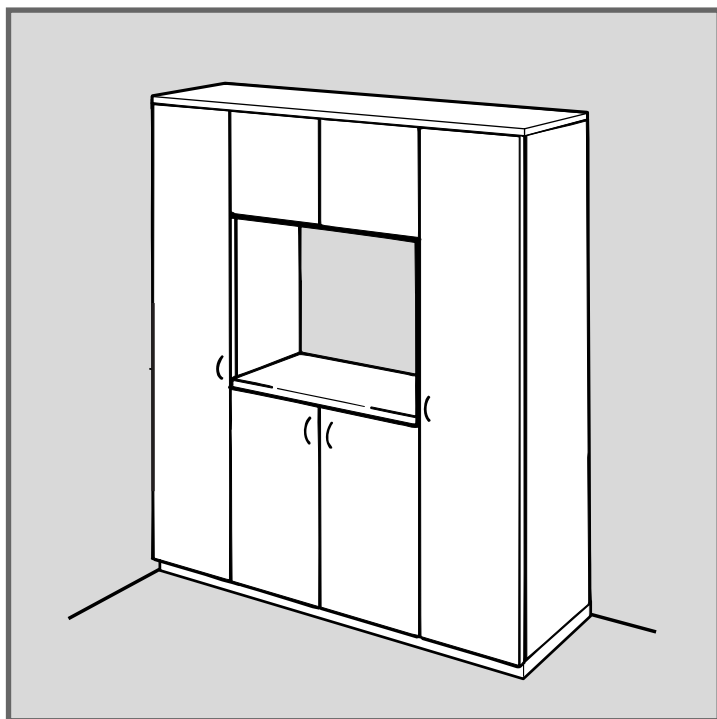
Panasonic®

施工説明書

玄関収納コンポリア

VERITISシリーズ

■この商品は、一般住宅、それに準じる居住施設および高齢者施設、小規模商業施設（床面積150m²未満）の屋内専用商品です。土足で利用される建物でのご使用や他の用途へのご使用はおやめください。不特定多数の方が利用する建築物（学校、体育館、その他小規模商業施設であっても不特定多数の方が利用する施設など）や、過酷な条件（高温・多湿、寒冷、油分が多いなど）でのご使用はおやめください。

■屋外および浴室内部など頻繁に水分と接するところには使用しないでください。

■施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。**特に「安全上のご注意」（2ページ）は、施工前に必ずお読みください。**

■施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。
また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■この商品は日本国内専用品ですので、日本国外での設置はしないでください。

■梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。

■取扱説明書は保証書に必要事項を記載のうえ、必ずお客様にお渡しください。
（施工完了後、使いかたを説明してください。）

もくじ

ケ-256P 第1版 1404

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

必ず守る

●必ず付属の金具・ねじにて施工する

付属の金具・ねじで施工されていないと、商品を確実に固定できず、破損・落下・転倒によりけがをするおそれがあります。

⚠注意

禁止

●施工時に商品仕様を変えるような加工をしない

商品仕様を変えるような加工をすると、品質保証責任を負いかねます。

●施工時、ユニットやカウンターに足をかけたり、乗ったりしない

破損・落下してけがをするおそれがあります。

●扉にぶら下がらない

扉が落下して、けがをするおそれがあります。

必ず守る

●ユニット壁面固定位置に必ず固定用木桟を取り付ける

取り付けないと、ユニットが落下してけがをするおそれがあります。

●ユニットの連結、壁面への固定を確実に行う

確実に固定しないと、回転収納の反転時などに転倒したり、落下してけがをするおそれがあります。

●丁番は扉へしっかりとすき間なく確実に固定する

取り付けに不備があると、扉が落下してけがをするおそれがあります。

●丁番台座の取り付けは、説明書にそって確実に行う

取り付けに不備があると、扉が落下してけがをするおそれがあります。

必ず守る

●ねじを固定する場合は、電動ドライバーなどで締めすぎによるねじの空回り、頭(スリワリ⊕)つぶれのないようにする

固定用ねじがきかないと、ユニットなどが落下してけがの原因となります。

●ユニットは必ず水平・垂直に取り付ける

水平・垂直に取り付けられていないと、転倒・落下してけがをするおそれがあります。
また、耐震ロックが正しく作動せず、けがをするおそれがあります。

●扉の吊り込みは丁番と台座を確実に固定する

確実に固定しないと、扉が落下してけがをするおそれがあります。

●回転収納を吊り施工する際は脚の固定を確実に行う

確実に固定しないと、転倒してけがをするおそれがあります。

●ミラーの取り扱いには十分注意する

注意しないと、ミラーが破損し、けがをするおそれがあります。

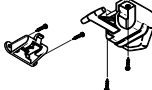
施工上のご注意（取っ手穴加工について）

●扉の種類によっては、取っ手用の穴加工が必要な扉があります。
必要に応じて18ページを参照し、加工してください。

●扉に取っ手取付用穴加工を施す場合は、加工面の反対側に当て木を当て、垂直に穴加工をしてください。
当て木を当てないとバリなどが発生し、正しく取っ手が施工できないおそれがあります。

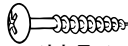
1 部材・部品表

〔寸法単位：mm〕

商品に梱包されている部材・部品は下表の通りです。梱包の内容をご確認ください。
商品の組み合わせによっては、ねじ・キャップが余ることがあります。
施工説明書・取扱説明書は、トールユニット・ローユニットに付属しています。

■天袋ユニット

※■には色記号が入ります。

	部材・部品名 ＼ 品番	1.5型 QCE1BS 11NN■■	3型 QCE1BS 13NN■■	4.5型 QCE1BS 14NN■■	6型 QCE1BS 16NN■■
部材表	天板・地板	各1	各1	各1	各1
	側板（左・右）	各1	各1	各1	各1
	裏板	1	2	1	1
	中仕切り板	―	―	1	1
部品表	ユニット固定部品	4	6	8	8
	部品取付ねじ トラス⊕ φ4×20	8	12	16	16
	ユニット固定用ねじ トラスタッピン ⊕ φ4×50	4	6	8	8
	ユニット連結用ねじ ツインファースト トラス⊕φ4×28	6	6	6	6
	戸当たり	2	4	6	8
	接着剤（酢ビ系）	1	1	1	1
	中仕切り用穴隠しキャップ φ7.8用	―	―	8	―
	耐震ロック 取付ねじ付 ナベ ⊕ φ3.5×16TP	1 セット	2 セット	3 セット	4 セット
	丁番・台座セット	2 セット	4 セット	6 セット	8 セット
	裏板用ジョイナー	―	1	―	―
	取っ手穴隠しキャップ	2	―	2	―

■ローユニット・トールユニット

※■には色記号が入ります。

	部材・部品名 ＼ 品番	ローユニット H780 1.5型 QCE1BL 11NN■■	ローユニット H780 3型 QCE1BL 13NN■■	トールユニット H2070 1.5型 QCE1BT 21NN■■	トールユニット H2070 3型 QCE1BT 23NN■■	トールユニット H1710 1.5型 QCE1BT 11NN■■	トールユニット H1710 3型 QCE1BT 13NN■■
部材表	天板・地板	各1	各1	各1	各1	各1	各1
部材表	側板（左・右）	各1	各1	各1	各1	各1	各1
部材表	裏板	1	2	1	2	1	2
部材表	固定棚	—	—	1	1	1	1
部品表	ユニット固定部品	4	6	4	6	4	6
部品表	部品取付ねじ トラス⊕ φ4×20	8	12	8	12	8	12
部品表	ユニット固定用ねじ トラスタッピン⊕φ4×50	4	6	4	6	4	6
部品表	裏板取付部品	2	2	4	4	4	4
部品表	取付ねじ ナベ⊕ φ3.0×16 TP	2	2	4	4	4	4
部品表	固定棚取付部品	—	—	4	4	4	4
部品表	取付ねじ バインド⊕ φ4×14 TP	—	—	8	8	8	8
部品表	ユニット連結用ねじ（カウンター固定用） ツインファーストトラス⊕φ4×28	6	6	6	6	6	6
部品表	戸当たり	2	4	2	4	2	4
部品表	接着剤（酢ビ系）	1	1	1	1	1	1
部品表	台輪下穴キャップ φ3用 （グレー）	4	4	4	4	4	4
部品表	耐震ロック 取り付け用ねじ付 ナベ⊕ φ3.5×16 TP	—	—	1 セット	2 セット	—	—
部品表	丁番・台座セット	2 セット	4 セット	4 セット	8 セット	3 セット	6 セット
部品表	裏板用ジョイナー	—	1	—	1	—	1
部品表	取っ手穴隠しキャップ	2	—	—	—	—	—

■ランナー（吊り施工用）

部品名 ＼ 品番	3型 QCE1CR 3NN	4.5型 QCE1CR 4NN	6型 QCE1CR 6NN
ランナー取付ねじ 皿⊕ φ3.8×51	4	6	8

■台輪（据え置き施工用）

部品名 ＼ 品番	3型 QCE1CD 3■■	4.5型 QCE1CD 4■■	6型 QCE1CD 6■■
ユニット連結用ねじ ツインファーストトラス ⊕φ4×28	4	8	12

※◆には**L・R**、■には色記号が入ります。

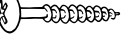
■傘収納・コート収納

部品名 ＼ 品番	フラットタッチ扉用仕切り板 QCE1TFN11 QCE1TFN32	3型傘・コート収納用仕切り板 QCE1PC	1.5型傘収納部材 QCE1PU
固定棚取付部品	4	8	—
取付ねじ バインド ⊕φ4×14 TP	8	16	—
パイプブラケット	—	2	2
取付ねじ ナベ⊕ φ4×10 TP	—	4	4
だ円S字フック	—	2	2
接着剤（酢ビ系）	—	1	—
L型金具	—	2	—
取付ねじ 皿⊕ φ3.5×16TP	—	4	—
縦仕切り用穴隠しキャップ φ7.8用	—	1	—
だ円アルミパイプ	—	1 L=225	1 L=360
傘受けトレー	—	1	1
スライドハンガー	—	1	—
取付ねじ ナベ⊕ φ3.5×16 TP	—	4	—

■エンドパネル

部品名 ＼ 品番	QCE1PEN■■
ユニット連結用ねじ ツインファースト トラス⊕φ4×28	6

■扉

部品名 ＼ 品番	トール1.5型扉 QCE1DT 21◆H■■
ライン取っ手用連結金具	1
連結金具取付ねじ 特平 ⊕ φ4×16TP	6

■タッチラッチ

部品名 ＼ 品番	QCE1PT
タッチラッチ	1
取付ねじ トラス⊕φ3.5×16	2
穴隠しキャップ φ3用 （グレー）	1

部品名 ＼ 品番	QCE1PT
扉裏部品	1
取付ねじ なべ ⊕φ3.5×16	1
キャップ	1

■棚板

		樹脂製棚板				
		1枚入り	2枚入り	4枚入り	5枚入り	9枚入り
1.5型	W＝369	QCE1TJN11	—	QCE1TJN14	QCE1TJN15	QCE1TJN19
3型	W＝769	QCE1TJN31	—	QCE1TJN34	QCE1TJN35	QCE1TJN39
傘コート大	W＝519	QCE1TJN51	—	—	—	—
傘コート小	W＝234	QCE1TJN21	QCE1TJN22	—	—	—
棚受けダボ		4	8	16	20	36

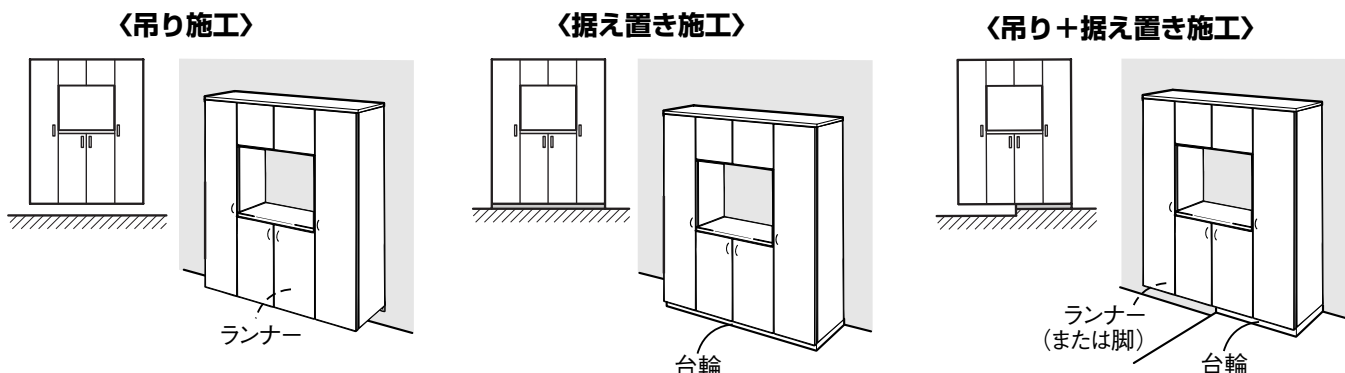
		木製棚板	スライド樹脂棚
		1枚入り	1枚入り
1.5型	W＝367	QCE1TWN11	QCE1TSN11
3型	W＝767	QCE1TWN31	QCE1TSN31
棚受けダボ		—	4
L型棚受けダボ（左右）		各1	—
丸型棚受けダボ		2	—

2 施工前の準備（建築工事・電気工事）

ランナーを使用する「吊り施工」、台輪を使用する「据え置き施工」、
ランナー（または脚）と台輪を組み合わせた「吊り＋据え置き施工」があります。

〈吊り施工〉

〈据え置き施工〉

〈吊り＋据え置き施工〉

※玄関収納コンポリアは、壁面へのねじ固定（4本または6本／ユニット）が必要です。

壁面に桟を取り付ける方法

壁面に固定用木桟を図の高さに取り付ける。
※推奨木桟：30×150 mm以上

※図の寸法は標準仕様の場合です。
Uオーダー仕様でユニット高さ変更時は、（注意）欄をご確認ください。

⚠注意

必ず守る

ユニット壁面固定位置に必ず固定用木桟を取り付ける

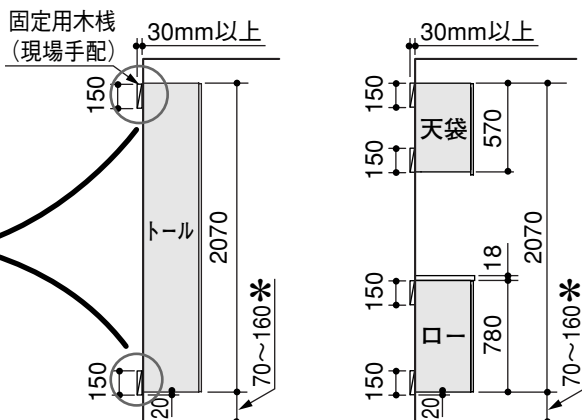
取り付けないと、ユニットが落下してけがをするおそれがあります。

注意

ユニット固定部品を用いて壁面固定をします。固定用木桟の取り付け位置は必ず守ってください。

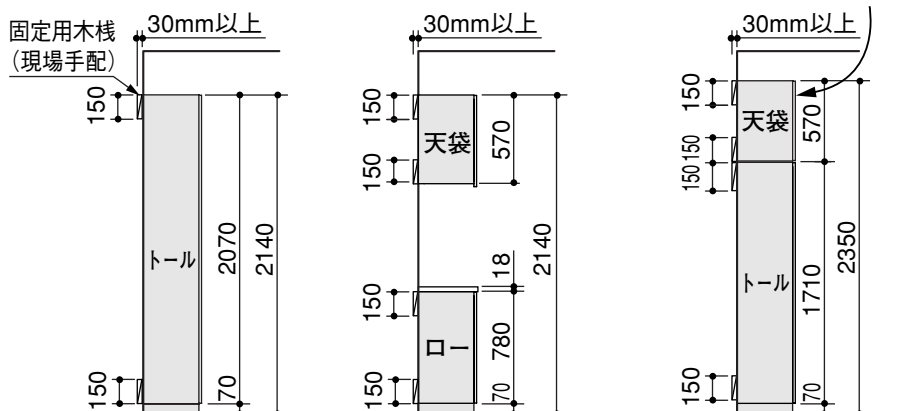
Uオーダー仕様の場合

ユニット固定部品による取付ねじの位置がユニットの天板・地板から75mmの位置になるため、その位置で固定用木桟を使って取り付けてください。

〈吊り施工の場合〉…ランナーが必要です

＊印寸法は参考寸法です。
据え付け後のカウンター高さに配慮して決めてください。

〈据え置き施工の場合〉…台輪が必要です

※据え置き施工の場合は、必ず台輪を使用してください。
（そのまま床に設置すると、扉が床に接して開閉できなくなります。）

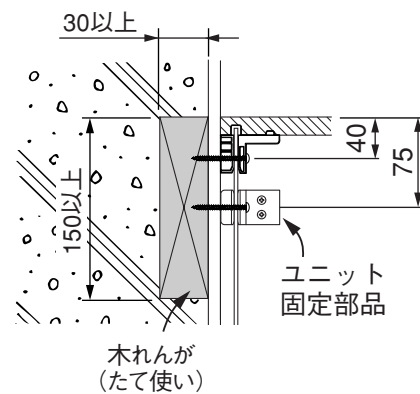
※下図の天袋の扉は取っ手付きプラン

〔寸法単位：mm〕

壁面にコンパネ下地を取り付ける方法

取り付ける壁面全面に9 mm以上のコンパネ下地を貼る。

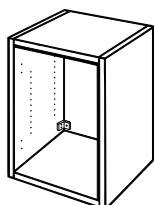
※ユニット固定ねじの長さは51 mmありますので、下地の厚み（スラブが下地にある場合など）にご注意ください。

壁面に木れんがや垂木を埋め込む方法

コンクリート壁面に取り付ける場合、取り付け位置にあらかじめ木れんがや垂木をコンクリート内に埋め込み、木ねじで取り付ける方法もあります。

3 組み立て

〔寸法単位：mm〕

組み立て完成図

天袋ユニット

1.5型

3型

4.5型／6型

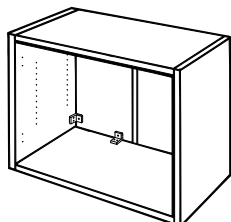
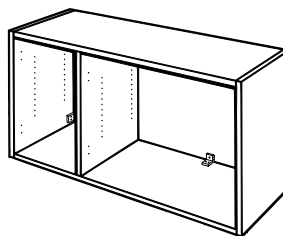
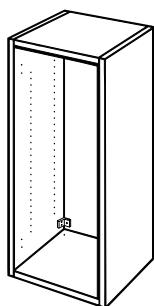
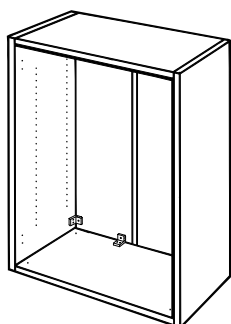
ローユニット

1.5型

3型

トールユニット

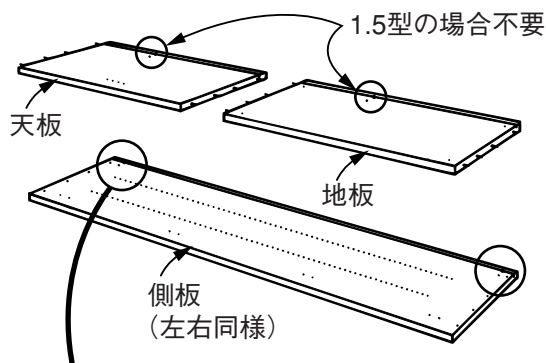
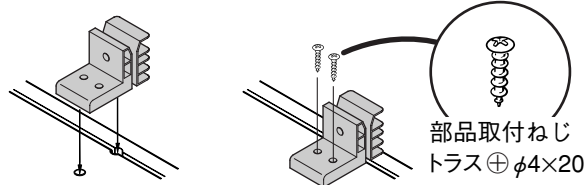
1.5型

3型

組み立てかた　※図はトールの場合

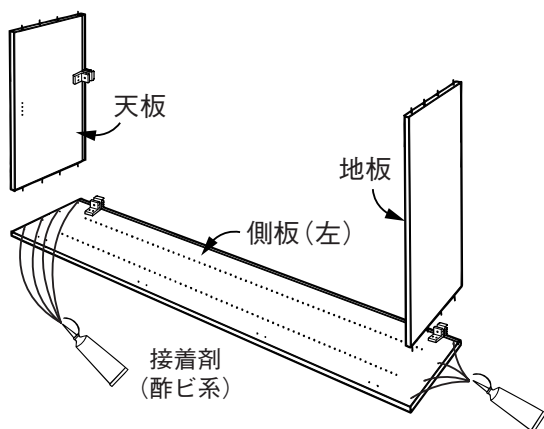
注意 ●天袋ユニットは組み立て時の上下に十分注意してください。
●組み立て時は、梱包材(ダンボール)を敷き、商品を傷つけないようにしてください。

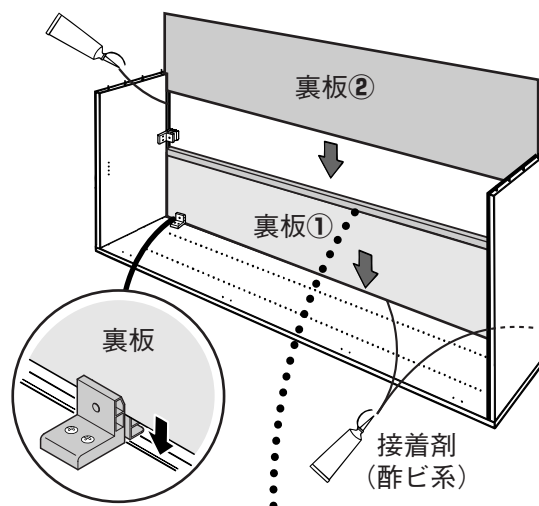
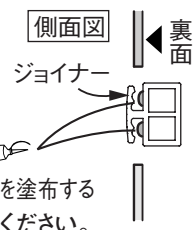
1. ユニット固定部品の取り付け

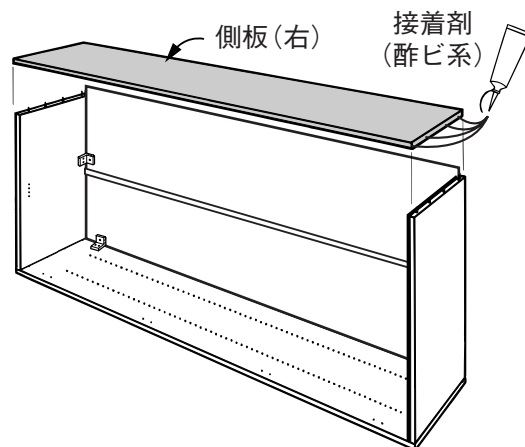
注意 **必ず初めにユニット固定部品を取り付けてください。**(裏板の差し込み後は、取り付けできません。)

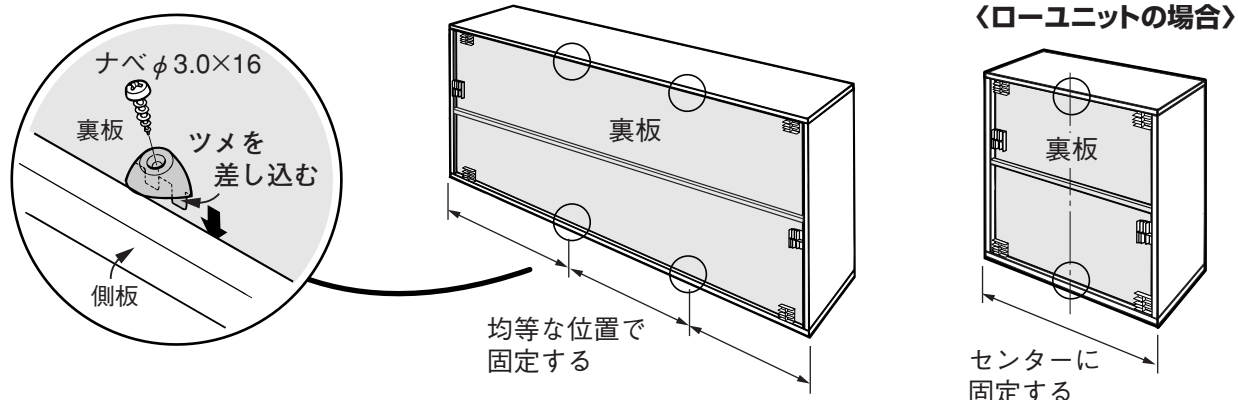
天板・地板・側板に付属のユニット固定部品を取り付ける。

注意 すき間なくピッタリとねじ止めしてください。

2. 天板・地板・側板(左)の組み立て

ダボ穴に付属の接着剤を塗布し、組み立てる。

3. 裏板の差し込み

天板・地板・側板の溝に付属の接着剤を塗布し、裏板を固定部品・溝に差し込む。

4. 側板(右)の取り付け

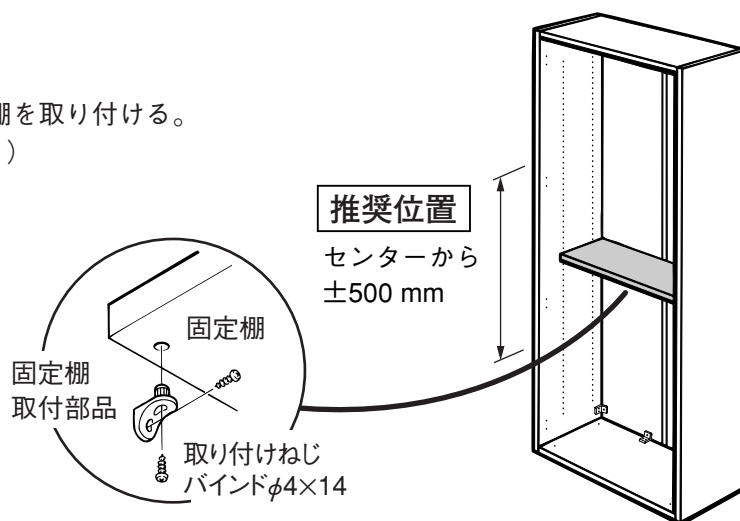
側板のダボ穴・溝に付属の接着剤を塗布し、取り付ける。

5. 裏板の固定

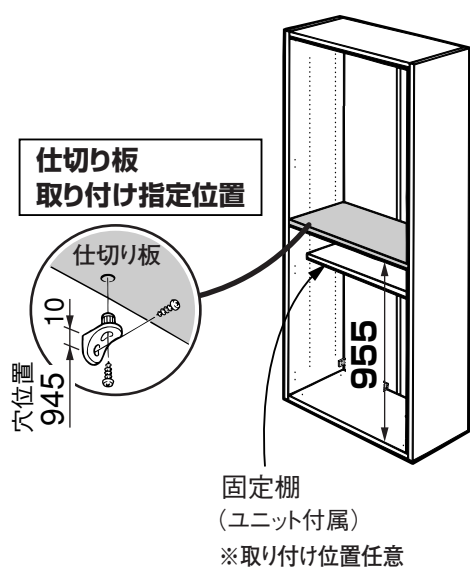
裏板取付部品のツメを裏板と側板の溝に差し込み、ねじ止めする。

〈ローユニットの場合〉

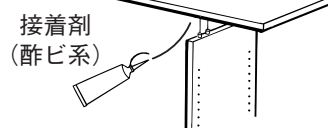
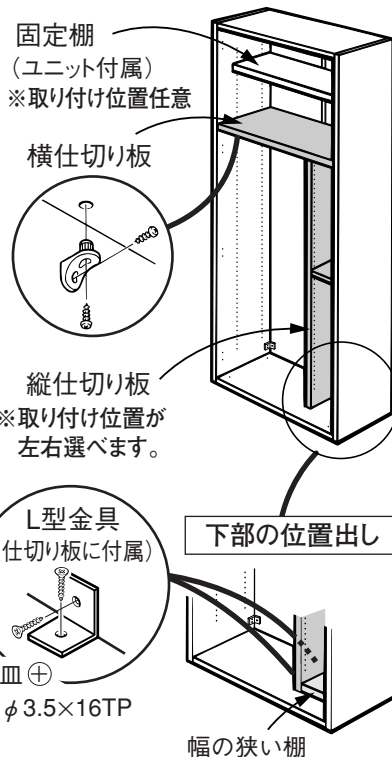
6. 固定棚の取り付け

〈トールユニットの場合〉

ユニット中央付近のダボ穴を利用して固定棚を取り付ける。
（施工時にユニットの直角が保たれません。）

※据え付けの前に行ってください。

〈フラットタッチ扉用仕切り板（別品番）を取り付ける場合〉

取付部品で、仕切り板を下記の**指定位置に**取り付ける。

〈傘・コート収納用仕切り板（別品番）を取り付ける場合〉

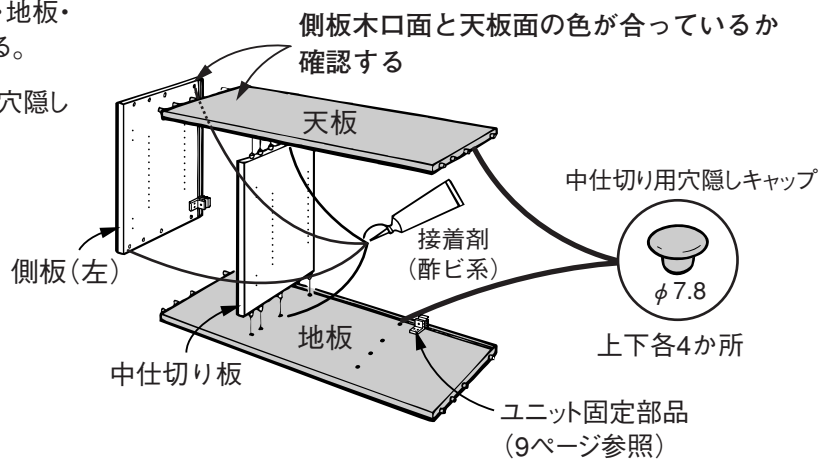
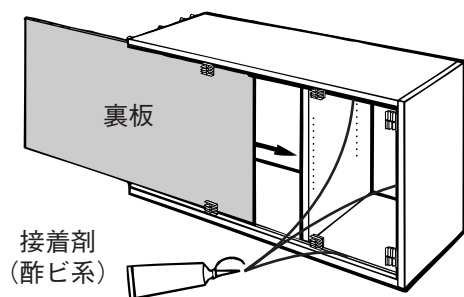
1. 縦・横仕切り板をT型にダボ組みする。
2. 取り付け部品で横仕切り板をユニットに固定する。
3. 幅の狭い棚を使って、縦仕切り板下部を位置出しし、L型金具で固定する。（前後2か所）
4. 幅の狭い棚とユニット付属の固定棚を取り付け部品で固定する。

※仕切り板がある場合、固定棚の取り付け位置は任意です。

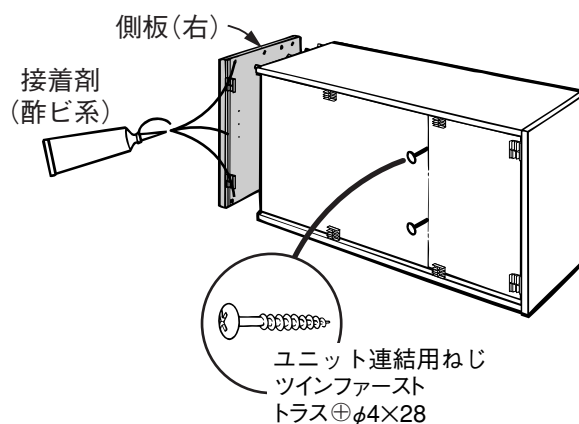
天袋ユニットの場合

天袋ユニット　4.5型・6型の場合

※組み立て前に中仕切り板の左右を確認してください。

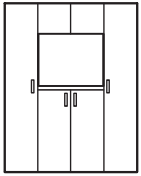
1. ユニット固定部品を取り付け、天板・地板・側板（左）・中仕切り板を組み立てる。

2. 使用しないダボ穴には、中仕切り用穴隠しキャップを取り付ける。

3. 裏板を差し込む。

4. 側板（右）を取り付ける。

5. ユニット連結用ねじで裏板から中仕切り板を固定する。

組み立て

4 据え付け

注意 ユニット組み立て時の接着剤が十分硬化した後に施工してください。

吊り施工

ランナーを取り付け、壁面固定のみで取り付けます。

※ランナー取り付け位置には下地材の準備が必要です。
「施工前の準備」(6ページ)をご確認ください。

⚠注意

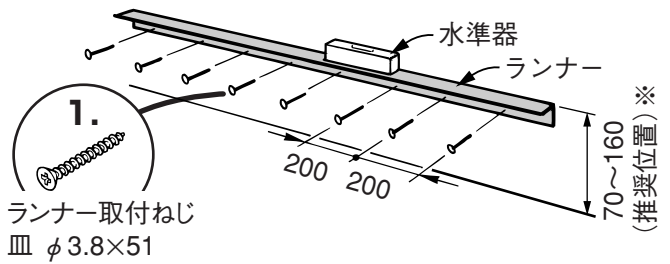
必ず守る

吊り施工の場合、ランナーは必ず使用する

使用しないと、ユニットが落下し、けがをするおそれがあります。

1. ランナー(壁面L金具)の取り付け

ランナーの水平を確認しながら、指定のねじで壁面に固定する。

※ランナー取り付け位置は施工現場対応です。
据え付け後のユニット上のカウンター高さに配慮して決めてください。

2. ユニットの設置

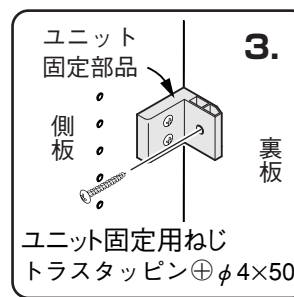
ユニットをランナーにのせる。

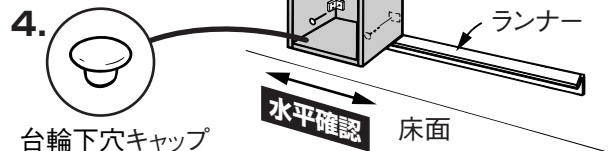
3. 壁面固定(1.5型…4か所・3型…6か所)

⚠注意

必ず守る

ユニットの壁面固定は、必ずユニット固定部品の位置で行う

裏板に芯材がないため、その他の場所で固定すると、転倒・落下によりけがをするおそれがあります。

4. 下穴キャップの取り付け

ユニット地板の台輪用下穴にキャップを取り付ける。

5. カウンターの取り付け

6. ユニットの連結

ユニットを壁面に固定(4か所)しながら、ユニット同士を連結用ねじで連結する。(天袋を除く)

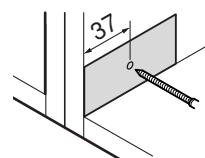
(ローユニット …4か所
トールユニット…6か所)

※天袋の固定は15ページを参照ください。

付属の連結ねじ位置決め治具を使って連結する。

A 手前側

側板と天板または地板にあて、穴をあける。

B 奥側

背板と天板または地板にあて、穴をあける。

付属の連結ねじ位置決め治具を使って固定する。

5. ユニット連結用ねじでカウンターを固定する。

(W400〜800…4か所
W1200以上…6か所)

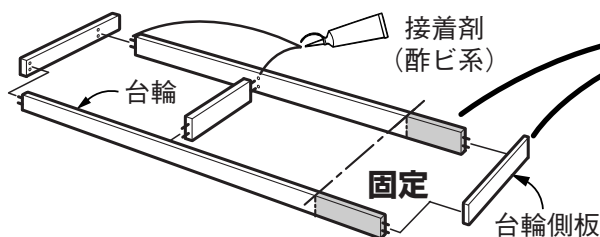
据え置き施工

壁面固定と台輪固定で取り付けます。

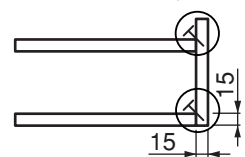
※必ず台輪を使用してください。

そのまま床に設置すると、扉が床に接して開閉できなくなります。

1. 台輪の組み立て

ダボ穴に接着剤を塗布し、台輪を組み立てる。

台輪をカットする場合

①ユニット幅から15mm（台輪側板の厚み分）ひいた長さに台輪の幅をカットする。
②カットした面を釘・タッカーなどで固定する。

※15mmの板厚から飛び出さないようにしてください。

※カットした場合は、面にダボがなくなりますので、釘・タッカーなどで固定してください。（現場調達）

2. 台輪の設置

台輪の後部が壁面に接するように設置する。

3. ユニットの設置

ユニットを台輪にのせ、地板の下穴からユニット連結用ねじで台輪に連結する。（**4か所**）
※**台輪の木口に固定する。**

4. 壁面固定（1.5型…4か所・3型…6か所）

⚠注意

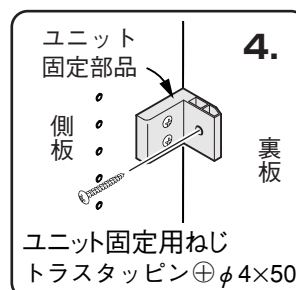
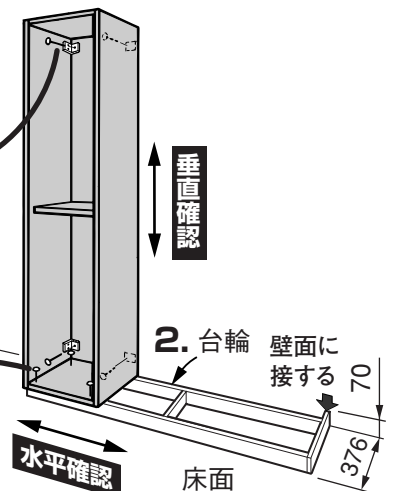
必ず守る

ユニットの壁面固定は、必ずユニット固定部品の位置で行う

裏板に芯材がないため、その他の場所で固定すると、転倒・落下によりけがをするおそれがあります。

ユニット
固定部品
側板
裏板
4.
ユニット固定用ねじ
トラスタッピン⊕ϕ4×50

3.
ユニット連結用ねじ
ツインファースト
トラス⊕ϕ4×28

垂直確認
2. 台輪
壁面に接する
70
376
水平確認
床面

5. カウンターの取り付け

6. ユニットの連結

ユニットを壁面に固定（4か所）しながら、ユニット同士連結用ねじで連結する。（天袋を除く）

（ローユニット …4か所
トールユニット…6か所）
※天袋の固定は15ページをご参照ください。

付属の連結ねじ位置決め治具を使って連結する。

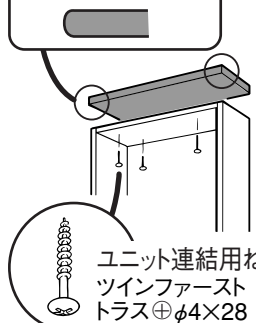
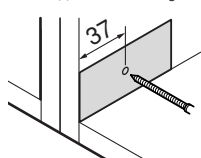
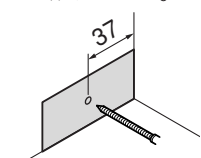
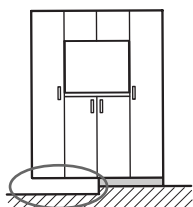
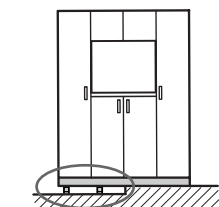
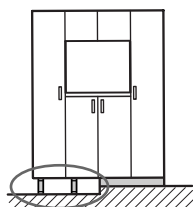
A 手前側
側板と天板または地板にあて、穴をあける。

B 奥側
背板と天板または地板にあて、穴をあける。

ユニット連結用ねじ

付属の連結ねじ位置決め治具を使って固定する。

5. ユニット連結用ねじでカウンターを固定する。
（W400～800…4か所
W1200以上…6か所）

角が丸い方が**前面**

吊り＋据え置き施工

ランナー ＋ 台輪　　脚 ＋ 台輪

台輪を付けた状態で脚を取り付けることもできます。

注意

ランナーまたは脚を必ず使用する

必ず守る

破損・落下によるけがのおそれがあります。

注意 壁面に固定する前に、ユニットの水平およびたわみなどのないことを確認してください。

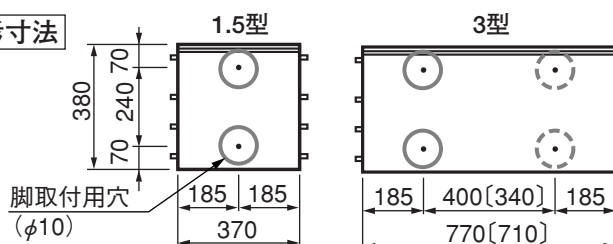
※脚は別途手配してください。（商品には付属されていません。）

〈脚を取り付ける場合〉

※ランナー部は12ページ、台輪部は13ページを参照してください。

1. 地板の下穴加工

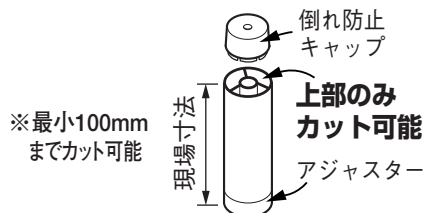
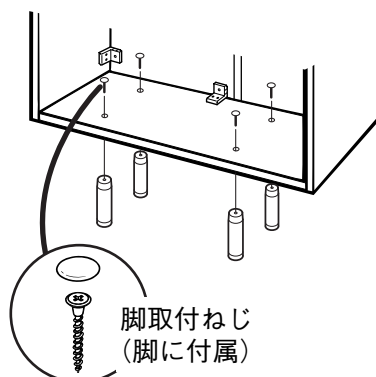
任意の位置で、地板にφ10の下穴をあける。

参考寸法

※〔　〕寸法は幅狭タイプの場合。

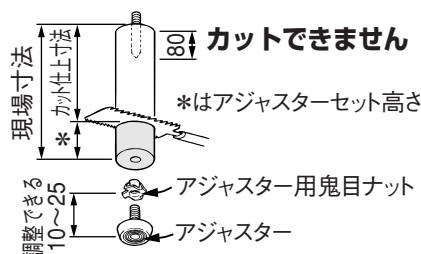
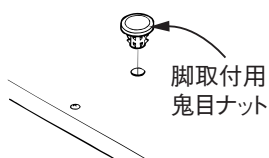
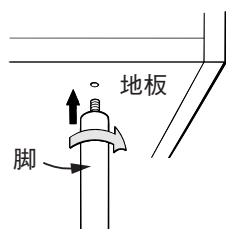
※框にユニットの一部がのる場合は、脚の取り付けは**2本**になります。

2. 脚の取り付け（別途手配）

アルミ脚の場合

1. 脚の長さを設置寸法に合わせてカットする。

●アジャスター部を残してください。
●斜めにカットしないでください。
●必ず倒れ防止キャップを取り付けてください。

2. ユニットに脚を取り付ける。

木製脚の場合

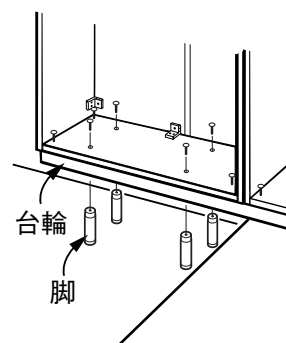
1. 脚は現場に合わせて切断し、アジャスター用鬼目ナット・アジャスターを取り付ける。

2. 地板の下穴に、脚取付用鬼目ナットを打ち込む。（脚梱包に付属）

3. ユニットに脚を取り付ける。

注意

必ず守る

脚は最後までしっかりとねじ込む

転倒し、けがをするおそれがあります。

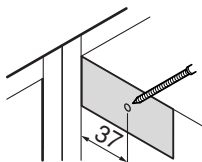
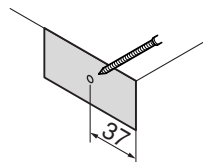
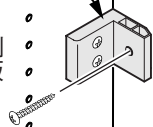
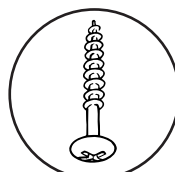
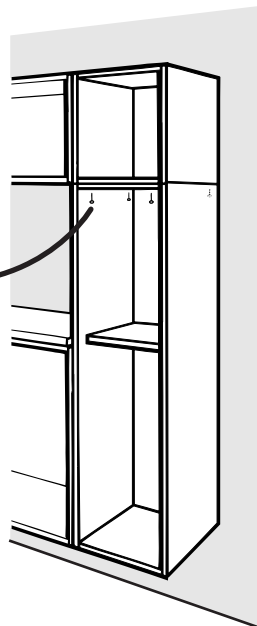
〈台輪を付けた状態で脚を取り付ける場合〉

台輪と脚の両方を地板に取り付ける。

天袋の壁面固定・連結〈吊り施工・据え置き施工共通〉

天袋ユニット取り付け位置まで持ち上げ、壁面に固定しながら、他のユニットと連結ねじで連結する。

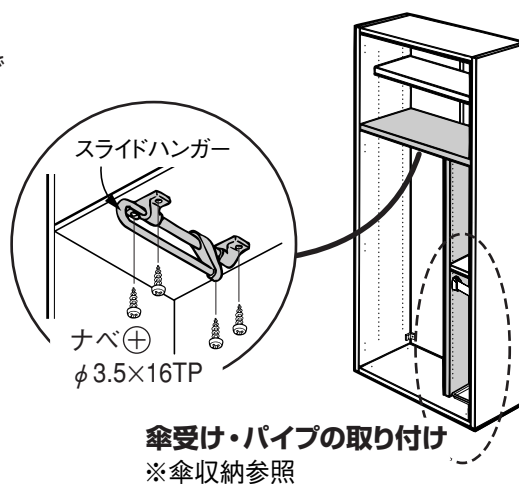
注意

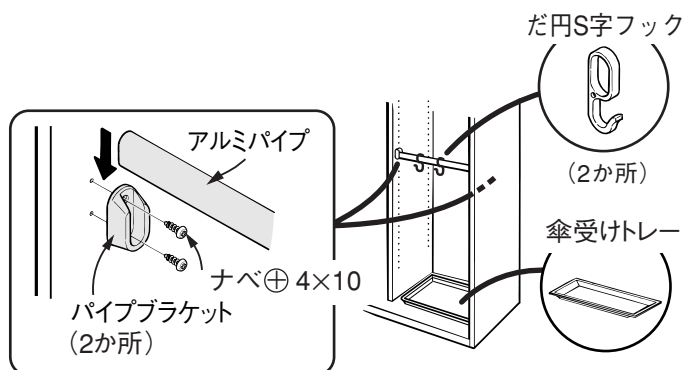
- ●ユニットの木口面を合わせるようにユニットを連結してください。
- ●天袋の扉は、取っ手付きタイプと取っ手なしタイプがあります。

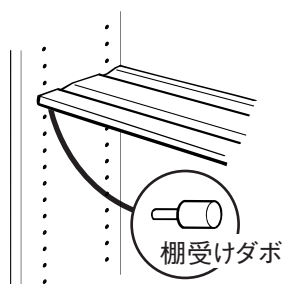
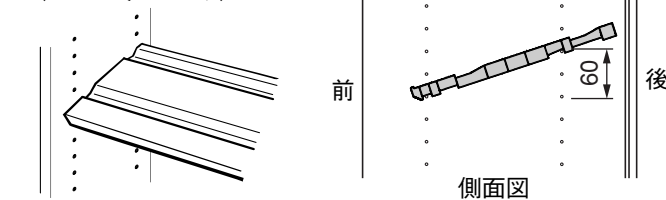
⚠注意	
禁止	**施工時、ユニットに足をかけたり、乗ったりしない** 破損・落下によるけがのおそれがあります。
必ず守る	**施工時は必ず二人作業で設置する** 守らないと、落下によりけがをするおそれがあります。
	ユニットの壁面固定は、必ずユニット固定部品の位置で行う 裏板に芯材がないため、その他の場所で固定すると、転倒・落下によりけがをするおそれがあります。

5 機能パーツの取り付け

〔寸法単位：mm〕

■傘・コート収納用仕切り板

治具を使用してスライドハンガーを取付ねじで取り付ける。（4か所）

■傘収納

1. パイプブラケットを側板（または仕切り板）のダボ穴の任意の位置に取り付ける。
2. だ円S字フックをアルミパイプに取り付け、アルミパイプを上からはめ込む。
3. 地板の上に傘受けトレーを設置する。

■樹脂製棚板

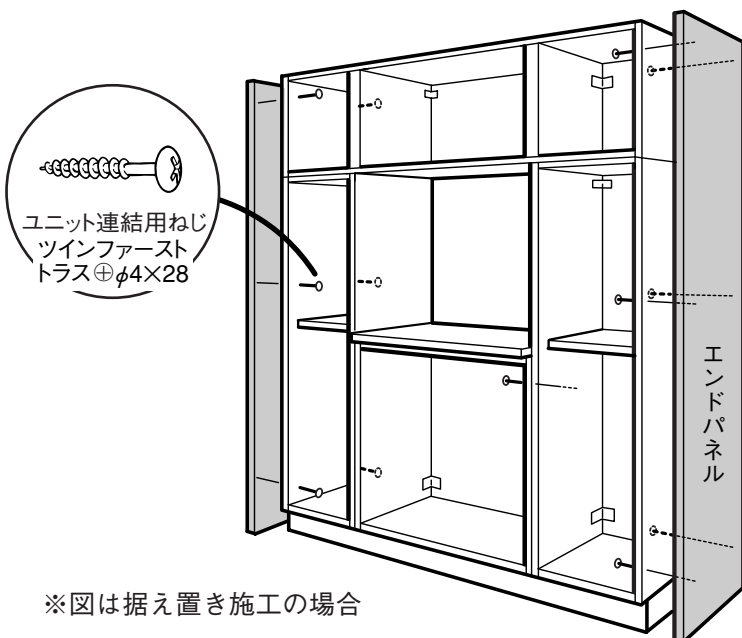
側板（または仕切り板）のダボ穴に棚受けダボを差し込んで棚板をのせる。

6 オプションの取り付け①

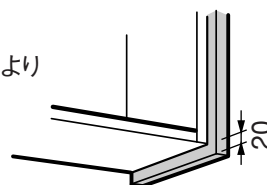
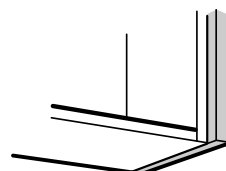
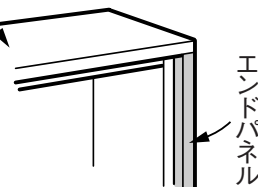
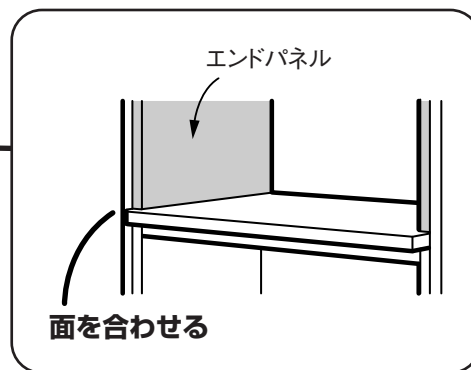
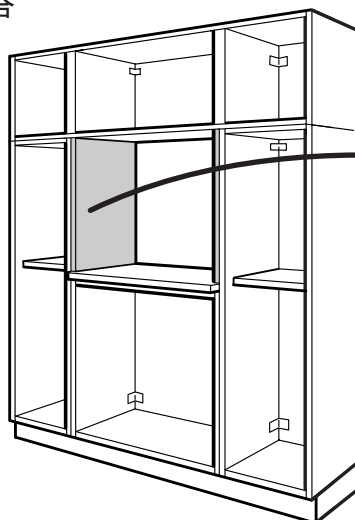
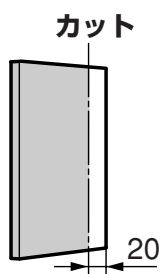
〔寸法単位：mm〕

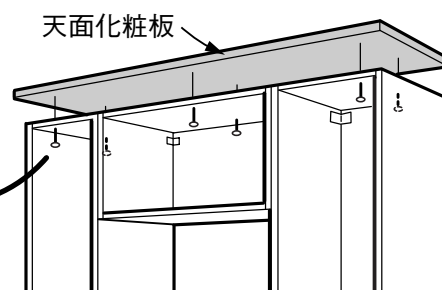
■エンドパネル

指定のねじを用いて取り付ける。

（天袋ユニット・ローユニット…4か所
トールユニット……………………6か所）

※エンドパネルはすべてユニット天板と面一になります。

※図は据え置き施工の場合

〈天袋ユニットが端にくる場合の納まり〉

〈ローユニットが端にくる場合の納まり〉

〈ロの字プラン側面にエンドパネルを取り付ける場合の納まり〉

■天面化粧板（カウンター共用）

天面化粧板をユニットに付属されている
ユニット連結ねじで取り付ける。
（6か所）

7 扉の取り付け

〔寸法単位：mm〕

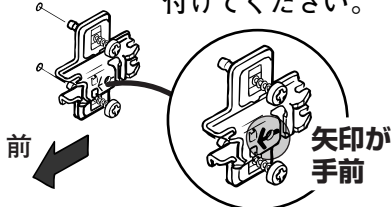
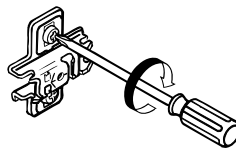
取っ手穴貫通・半貫通について

下記は、左右兼用扉のため、取っ手穴が半貫通となっています。
勝手を確定後、使用する位置に対してのみ貫通加工を行い、
取っ手を取り付けてください。

●1.5型取っ手あり天袋用扉（フラット扉）
●1.5型取っ手ありローユニット用扉（フラット扉）

注意 誤った穴を貫通すると扉が使用できなくなります。

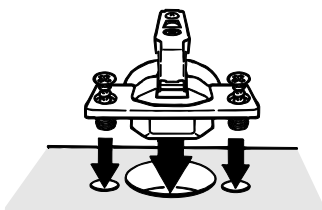
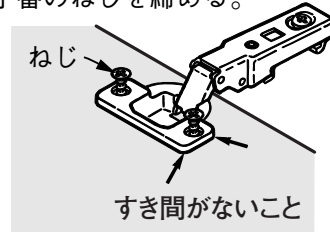
■丁番台座の取り付け

1. 側板の下穴に丁番台座をはめ込む。

2. ドライバーでねじを締めて
固定する。（2か所）

注意 丁番台座と側板との
すき間がないことを
確認してください。

⚠注意	
必ず守る	丁番台座には前後があるので、注意する 取り付けに不備があると、扉が落下して、けがをするおそれがあります。

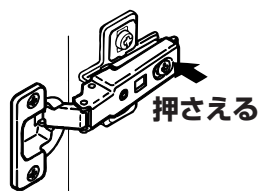
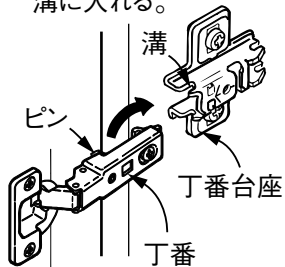
■丁番の取り付け

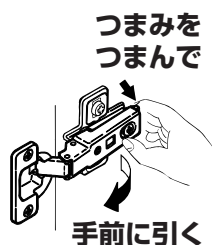
注意 取り付け前に、下穴の中に木くずやごみが入っていないか確認してください。

1. 扉の下穴に丁番をはめ込む。

2. 丁番のねじを締める。

注意 扉と丁番とのすき間が
ないことを確認して
ください。

■丁番の固定

1. 丁番のピンを丁番台座の溝に入れる。

2. 「ガチッ」と鳴るまで押さえる。

注意 取り付け後、必ず2〜3回開閉し、丁番が確実に固定されているかを確認してください。

扉の外しかた

⚠注意	
必ず守る	**必ず扉と丁番の間にすき間がないことを確認する** 取り付けに不備があると、扉が落下して、けがをするおそれがあります。
	丁番が取り付いた状態で、再度、扉と丁番の間にすき間がないことを確認する 取り付けに不備があると、扉が落下して、けがをするおそれがあります。

■扉の調整

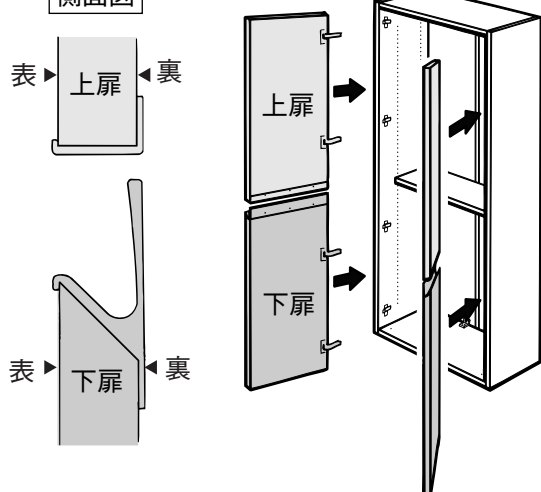
扉の状態	調整方法	扉の状態	調整方法	扉の状態	調整方法
例1	Ⓐ	例2	Ⓑ	例3	Ⓒ Ⓒ
Ⓐを緩めると扉が矢印の方向に動く。		Ⓑを緩めて丁番本体部を前後に移動させる。 ※調整後、必ずしっかり締めてください。		① 扉1枚の全てのⒸを緩める。 ② 扉を上下に動かして高さを合わせる。 ③ 全てのⒸを締め直す。	

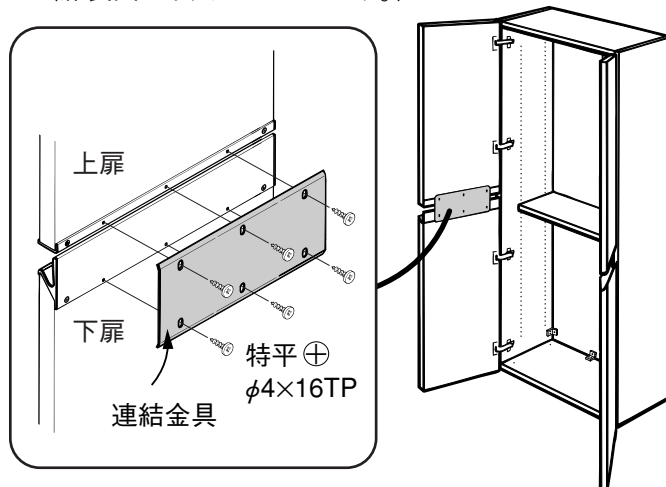
注意 扉の調整後必ず2〜3回開閉し、扉が確実についていることを確認してください。
ミラー扉が壁際に接するプランの際、Ⓐの調整にて壁際より離してください。

■トールライン取っ手扉

注意

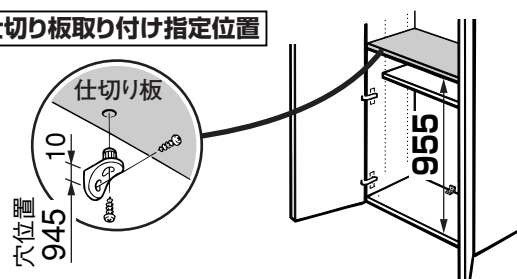
- **上下の扉は、必ず連結して使用してください。**
  連結しないと、扉がユニットに当たり、傷が付くおそれがあります。
- **連結金具は、上下の扉を吊り込んだ後、取り付けてください。**
  吊り込む前に連結すると、扉が破損するおそれがあります。

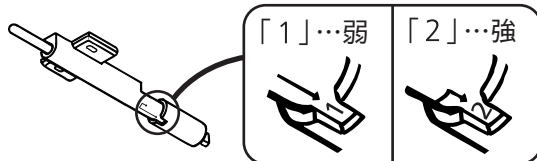
1. 上扉・下扉をユニットに各々取り付ける。
※上扉、下扉の形状が違いますのでご注意ください。

2. 扉の目地を調整する。（上記参照）

3. 上下の扉を連結金具で連結する。
（扉裏面に下穴があいています。）

■フラットタッチ扉

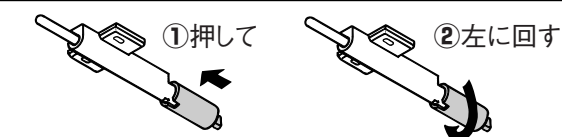
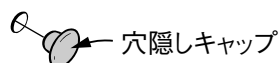
取り付け前の準備

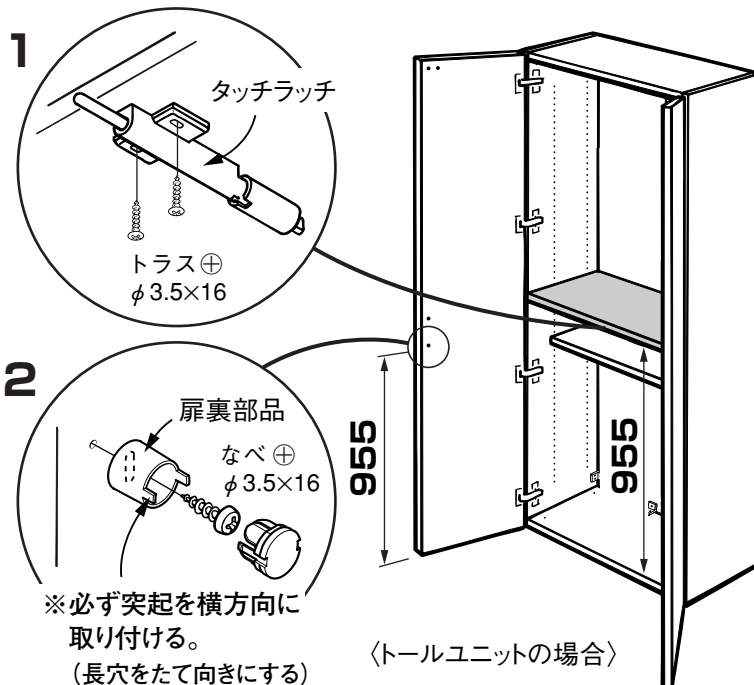
仕切り板（別品番）の取り付け確認

注意 トールユニットの場合、仕切り板が**指定位置に**取り付けられていることを必ず確認してください。

タッチラッチ（別品番）の調整

取り付け前に必ず調整してください。

●ローユニットの場合…「1」を選ぶ
※出荷時の状態です。
●トールユニットの場合…「2」を選ぶ

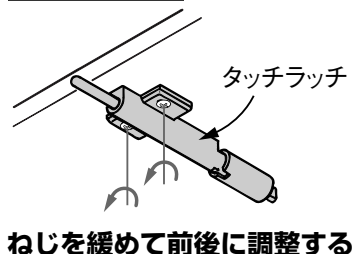
「1」→「2」にする場合

「2」→「1」にする場合

1. 仕切り板、またはローユニットの天板に、ねじでタッチラッチを取り付ける。
2. 扉の下穴に、扉裏部品を取り付ける。
3. 〈左右兼用扉の場合のみ〉
   使わない扉の下穴に、穴隠しキャップを取り付ける。

注意 左右兼用扉の場合、下穴が2つありますので、間違えないようにご注意ください。
取り付け位置を間違えると、扉裏部品と仕切り板が干渉し、扉の開閉ができなくなるおそれがあります。

※必ず突起を横方向に取り付ける。
（長穴をたて向きにする）

〈トールユニットの場合〉

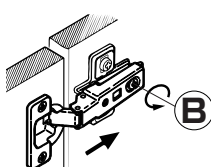
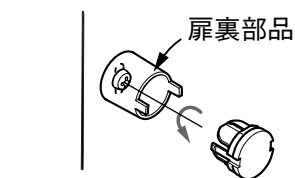
動作確認・調整方法

2〜3回開閉し、タッチラッチの開閉がスムーズに行えない場合は、前後・上下の位置調整を行ってください。

前後位置調整

ねじを緩めて前後に調整する

※タッチラッチの調整で開閉が正常にならない場合は、下記のように丁番を前後に調整してください。

丁番の調整

Ⓑを緩めて丁番本体部を後に移動させる。
※調整後、必ずしっかり締めてください。

上下位置調整

ねじを緩めて上下に調整する

8 扉用部品の取り付け

〔寸法単位：mm〕

■耐震ロック

〈天袋・トールユニットのみ〉

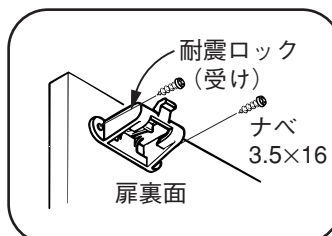
注意

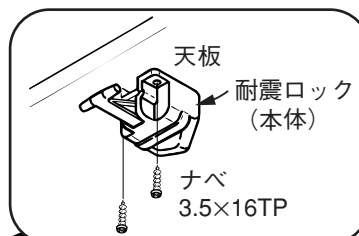
必ず守る

ユニットが水平に取り付いているか確認する

水平に取り付けられていないと、耐震ロックが正しく作動せず、けがをするおそれがあります。

受け

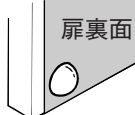
扉裏面上部の下穴に耐震ロック受けを取り付ける。

本体

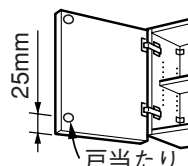
天板の下穴に耐震ロック本体を取り付ける。

■戸当たり

扉裏面の天板・地板にピッタリ当たる位置に貼る。

※グレーシート部に貼ってください。

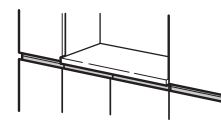
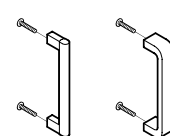
注意

フラットタッチ扉には貼らないでください。

〈天袋ユニット（取っ手なしタイプ）の場合〉

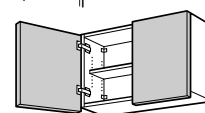
天袋ユニット下部の戸当たりは右図の位置に貼る。

■取っ手

扉裏面からねじで固定する。

※扉によっては、取っ手穴加工を行ってください。（18ページ参照）

※ライン取っ手扉・フラットタッチ扉・ミラー扉の場合は、ハンドル取っ手は付きません。

〈天袋ユニットの場合〉

取っ手付きと取っ手なしがあります。

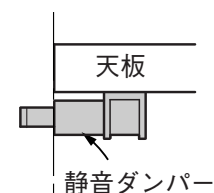
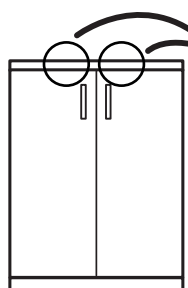
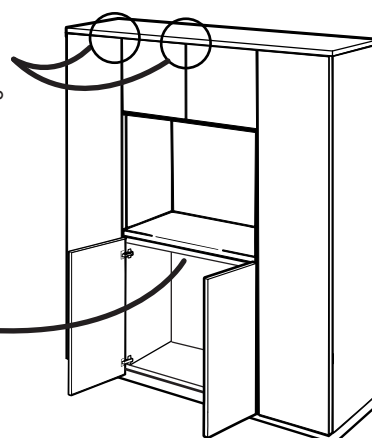
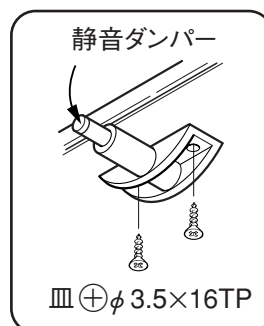
（右図は取っ手なしタイプの場合）

9 オプションの取り付け②

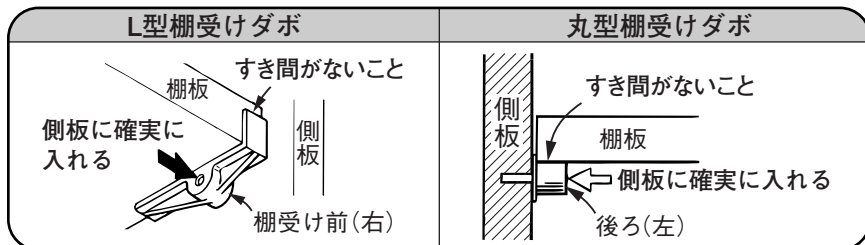
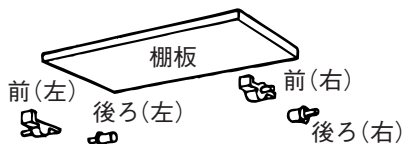
〔寸法単位：mm〕

■静音ダンパー

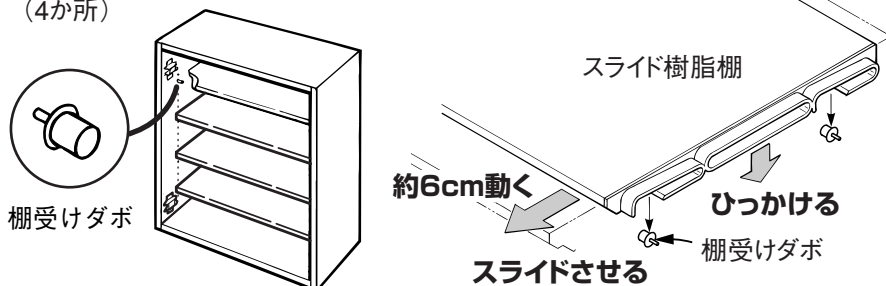
静音ダンパーを取付ねじで取り付ける。（2か所）

〈前後方向〉

〈左右方向〉

※天袋・トールユニットの場合は、耐震ロックの横に取り付けてください。

■木製棚板

L型棚受けダボを前側、
丸型棚受けダボを後ろ側に
取り付け、棚板をのせる。

⚠注意	
必ず守る	棚受けのユニットへの取り付け、棚のセットは確実に行う 取り付けに不備があると、棚板が落下して、けがをするおそれがあります。

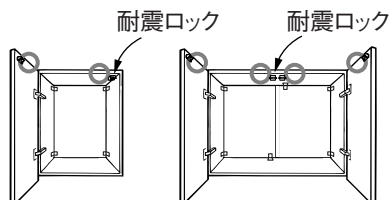
■スライド樹脂棚

側板に棚受けダボを取り付け、スライド樹脂棚をひっかける。
（4か所）

注意

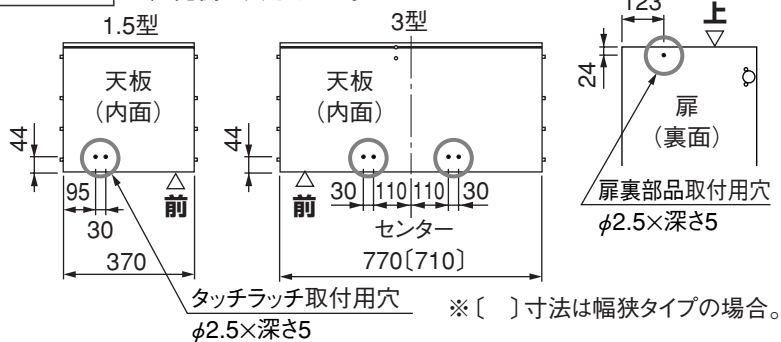
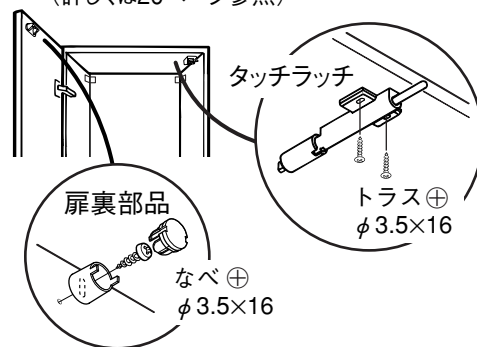
スライド樹脂棚の取り付け後、必ず2〜3回出し入れし、棚板が正常にスライドするか確認してください。

■タッチラッチ（天袋ユニットに付ける場合）

天板に取り付ける

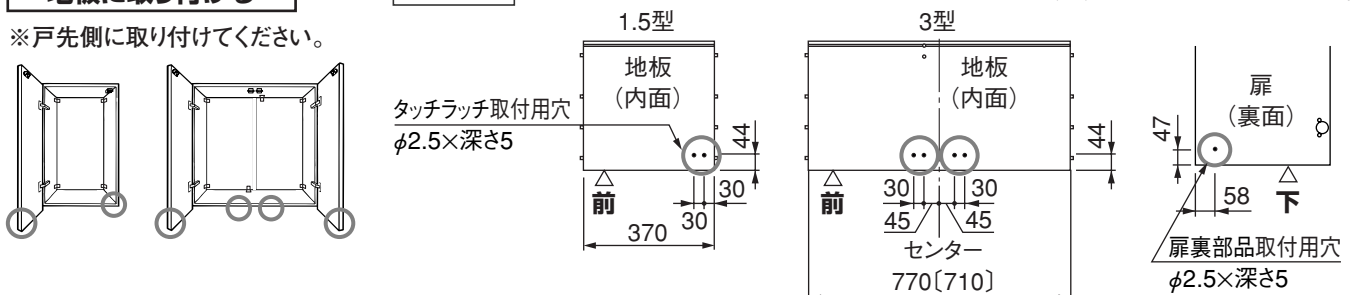
※戸先側の耐震ロックの横に取り付けてください。

1. 天板と扉にφ2.5×深さ5の下穴をあける。

下穴位置 ※戸先側に穴をあける。

※〔　〕寸法は幅狭タイプの場合。

2. タッチラッチ・扉裏部品を取り付ける。
（詳しくは20ページ参照）

〈高さの拡大オーダーをした場合（H600以上の場合）〉

地板に取り付ける

※戸先側に取り付けてください。

下穴位置 ※戸先側に穴をあける。　※〔　〕寸法は幅狭タイプの場合。

施工後の確認

■下記の表に従い、施工の仕上がりをチェックしてください。

チェック項目	チェック	チェック項目	チェック
ユニット本体が壁面に確実に固定されていますか?		取っ手のゆるみ、傷などはありませんか?	
扉とユニット本体が確実に固定されていますか?		コンセントに電源100Vはきていますか?	
扉の目地調整はできていますか?		耐震ロックは取り付けていますか?	
扉は自然に閉まりますか?浮きはないですか?		付属部品は全て取り付けていますか?	
各ユニットおよび納まり部材の連結は確実に行われていますか?		付属品は確実にセットされていますか?	
扉・ユニット内外部・カウンター表面に傷、汚れ、残材、木くずなどはないですか?		照明の点灯・取り付けはよいですか?	
		各キャップ類は取り付けていますか?	
水平に取り付いていますか?		納まり部材は適切な位置に確実に固定されていますか?（固定が不十分な場合、落下の危険性があります。）	
引き出しはスムーズに出入れできますか?			

※施工後の養生時には、ガムテープを使用しないでください。

※施工後、周囲の建築工事に支障のないようにダンボール材などで養生してください。
（養生用弱粘テープを使用し、扉・側板・地板などの化粧面には直接貼付けないでください。）